

#### 第4回「第6地区教科用図書採択教育委員会協議会」記録

日 時：平成 29 年 8 月 8 日（火）13：30～15：20

場 所：上川合同庁舎 1 階 103 号会議室

出席者：上川管内市町村教育長（旭川市を除く）

事務局：東神楽町教育委員会

#### 1 議題

採択（※教育出版、光村図書、日本文教出版の 3 者の中から採択）

#### （1）道徳

#### 2 協議会記録

事務局 只今から、第 4 回「第 6 地区教科用図書採択教育委員会協議会」を開催します。開催に当たり、協議会会長よりご挨拶申し上げます。

議 長 皆さん大変ご苦労様です。ご案内の通り、本日、道徳の教科書を決定させていただくという会になりました。前回の会議から、皆さんそれぞれ教科書を再度点検されたのではないかと思いますので、率直に議論をいただき、まとめていきたいと思いますのでご協力願います。

事務局 この後の議事については、会長に進行をお願いいたします。

議 長 初めに経過報告について事務局からお願いいたします。

事務局 それでは、これまでの経過を報告します。7 月 24 日に開催した「第 3 回第 6 地区教科用図書採択教育委員会協議会」において、「平成 30 年度から使用する小学校用「特別支援」及び「特別の教科 道徳」の教科用図書の採択を行い、特別支援については、新規図書 9 冊について全会一致により全て採択となりました。また、道徳については、全会一致とはならなかったため、規約により、再度協議を行うことと決定しました。

なお、7 月 24 日の協議により本日の再協議におきましては、「教育出版」「光村図書」「日本文教出版」の 3 者の中から採択を行うものと決定したところです。

議 長 それでは、平成 30 年度から使用する小学校「特別の教科 道徳」の教科用図書の採択に入りますが、議事を進めるに当たり、参考する資料については前回同様、北海道教育委員会から送付されている「平成 30 年度から使用する小学校用の教科用図書採択参考資料」、それから、第 6 地区教科用図書調査委員会作成による「平成 30 年度から使用する小学校教科用図書調査に関する報告書」、各教科書会社等の「教科用図書の趣意書」及び「教科用図書の見本」であります。

委員

早速協議に入りますが、多くの皆さんからご意見をいただきたいと思います。なお、発言の際はなるべく1者に絞った形での発言をお願いします。

前回、これまで使用されている副読本と、次年度以降取り扱われる教科書の取扱い一覧について説明しましたが、補足しますと、低学年で19項目、中学年で20項目、高学年で22項目の項目全て扱うことになっております。

これまでは、副読本の中から教材を選択して学習するというスタンスでした。次年度から、教科書の内容を年35時間で全て扱うと考え、各者の分量などについて意見を述べたところであります。

教科化に対するねらいやこれまでの反省を踏まえ、「考え、議論する道徳」になるよう、また、地域素材を活かす授業づくりなどの観点から教材数が多い教科書について意見を述べたところです。

今日は別の観点から述べます。1つ目は、「指導者と資料」の観点からです。道徳教育というのは様々な歴史的な経緯があり、若い先生方を始め年配の先生方も含め、特に、読み物資料を使用して授業を進めてきている先生方は、あまり多くないのではないかと思います。そのような観点から、読み物資料については、質・量を考えなければいけないと思います。

質については、子ども達にとって理解しやすく、道徳的価値について「考え、議論できる」のが望ましいと思います。道徳の授業は、なぞり学習といいまして、挿絵を黒板に貼り、あらすじをなぞりながら内容を理解させていきます。その際、登場人物の心情を理解する上では、会話文や挿絵の表情などが大切な役割を担っています。私なりに思ったことは、例えば「手品師」という資料の場合、日文で取り上げられている手品師では、挿絵が4カットあり、1番キーになるのは3番目の手品師の表情ですが、挿絵から「葛藤している」と読み取るのは難しいという印象がありました。

教育出版の挿絵は5カットあり、3枚目と4枚目のカットが内容とマッチしており、あらすじを把握するのにはよいかと思いました。

光村の挿絵は4カットあり、挿絵の人物の目が点になっていますが表情は読み取れます。このことから、どの教科書が1番というようなことを判断するのは難しかったのですが、教科書のサイズだとか、紙の色合いだとか、文字の濃さ、そういったところを判断すると、見やすいのは教出、光村です。光村は字が細くてフォントが少し小さいという印象でした。扱いやすいのは教出、光村の順だと思います。

議長  
委員

他にありませんか。

前回、日文がよいのではないかと申し上げました。理由として、命の大切さなど分かりやすく表しているということでしたが、今回改めて、先生が子ども達に対してどのような発問をしていくのか想像してみました。

教育出版の発問は、様々な考え方を引き出せるようになっていていると思います。先生方が生徒と向き合う、アクティブに話しができると考えると教出、日文、光村という順です。

議 長  
委 員

他にありませんか。

教育出版の手引きを1年生から全て見たのですが、1年生の「かぼちゃのつる」の教材では、吹き出しに「わがまま」とか書いてある。また、「雨のバス停留所で」の手引きの部分において、「よしこさんがしたことは何が問題か考えてみましょう」と、光村と日文は書いているが、教育出版は吹き出しを書いて、「バスを待っている人がたくさんいるのに割り込みしているよね」とあります。確かに最終的に話し合っってこのような答えになると思いますが、そのような「吹き出し」が全ての学年にあり、吹き出しの部分にセリフが入っており、言い切ってしまうと考え方が収まってしまうのではないかと思います。これは少し自分としては、違和感があります。

議 長  
委 員

他にありませんか。

3者共通の教材ということで、4年生の「絵はがきと切手」「雨のバス停留所で」、1年生の「かぼちゃのつる」を横並びに比較してみました。

教出の「吹き出し」については、議論するときの1つとして示されている。これは、道徳の教科書検定において検定基準がありますが、その1番目の(1)の②に「多様な見方や考え方ができる事柄を取り上げる場合には、その取り上げ方について特定の見方や考え方の偏った伝え方がされておらず、公正であるとともに児童生徒の心身の発達段階に多面的、多角的…」ということが示されており規定されています。ここから見て文科省は検定しています。

教出の発問についてですが、非常に大事だと思います。発問が貧しければ子どもたちの答えが全然返ってきません。3者の発問を見ていくと、これは難しいのではという発問もかなりありましたが、管内の先生方は基本的には「価値の方向付け」「価値の追求」「価値の自覚」「意欲化」という流れで授業を行っています。1年生の「かぼちゃのつる」では、つるのがびで他の畑の方までのばしていったら畑の方から怒られ、道路に出てそのうちトラックに踏まれて、痛い痛いというような結末です。きまりを守って生活しようという価値項目の内容ですが、価値の自覚の場面で光村は「かぼちゃがつるをのばす時、どんなことを考えればよかったのでしょうか」という発問です。1年生にとってはとても難しいです。この発問ですぐに答えは返ってこないだろうと思います。日文を見ましたら、「周りの人の注意を聞いて我慢することができたときのことを思い出してみよう」とありました。「そんなことないな」で終わってしまう。広がりが欠けるとか最初か

ら問いが分からないというような状況に、子ども達は陥るのではないかと思います。

教出を見ると、「どうすればよかったか、かぼちゃに教えてあげましょう」と問いかけている。子どもたちは意欲化ですから、「教えてあげよう」という気持ちになる。そういう視点から見て、発問の数が多く選択できるということもありますし、これはどうかという発問もありましたが、総じて見ると非常に発問が練られていることと、1年生から発達の段階に応じた発問がしっかりと示されているということがありますので、教育出版が1番で2番が日文、3番が光村だと思います。

議 長  
委 員

他にありませんか。

今、何人かの委員から意見が出されましたが、私が考えていることを説明します。発問の件ですが、教育出版の場合は、吹き出しに予想される答えがすでに例示されており、それがほぼ答えの方向性を示しすぎているのではないかと思います。

先ほど紙の質のお話がありましたが、日文と教育出版は、真っ白で光に当てると若干反射して字が見づらいということがあります。光村は、白を抑えて反射することなく目には優しいと思います。

教材の量の話ですが、光村の教科書は非常に量が多いのではないかと思います。52教材ということでしたが改めてみますと、52教材ではなく32教材ということで目次のところに書いてあるのを数えていくと35になります。その他に説明資料が出ていますが、あくまでも資料です。他の教科書は、ほぼ35ですが、教育出版だけ教材数は29ということで、こちらの方が問題あるのではないかと思います。光村の教科書のページ数については極端に多いというお話もありましたが、光村は208ページ、日文は224ページ、あかつきが228ページ、学研が204ページ。教育出版だけ152ページということで、極端に少ないと思います。字が小さいということで2年生の「かさじぞう」、これは朗読と言いますか先生が読み聞かせをしてそれを聞いて道徳を学んでいくので、あえて文字を小さくして絵を見ながら学んでもらうという工夫ですので、他のものとは観点が違うと思います。私として全体的には1番は光村、2番は日文、3番が教育出版という順位付けであります。

議 長  
委 員

他にありませんか。

本の大きさの部分でB5判というのは今でもスタンダードで、片手で持つと丁度よいサイズです。色合いの部分についても、鮮やかさが抑えられていて、落ち着きを感じられるという、そういう部分では光村なのかと思います。内容の部分について、発問の吹き出しは私も気になります。教育

出版の場合は発問が5つあって、指導に慣れていない若い先生方が教科書で指導することを考えたときに、発問が多い方が指導しやすい教科書であると言えます。光村の発問は若干少ないのですが、内容の部分での深まりなどを考えていくと、私の主観的な考えでは光村の内容の方が少し深いという印象をもっており、将来に渡って道德の教科書を何年先も使うのであれば、今現在すぐの指導のしやすさ、使いやすさで選ぶのではなくて、深い内容のもった光村にするべきだという思いがあります。

2年間でまた、もう1度教科書採択の機会が訪れることを考えると、最初の2年は使いやすい教科書にした方がよいのかなと思います。個人的には具体的な細かい部分で論理的には言えませんが、光村が1番で2番が教出、3番が日文です。

議 長  
委 員

他にありませんか。

発問の深みでお話されていましたが、「雨のバス停留所で」という教材が4年生であります。教育出版は64ページ、光村は98ページ、日文は48ページです。これを比較してみるとよく分かるのではないかと思います。雨のバスの停留所というのは、教育出版では6点発問をしていおり、光村は3点です。日文は常に3点です。発問の中身について日文はぶれていません。発問1～3の光村と、教育出版の6点を比較してみたのですが、発問の意図がよく分かると思います。

段階を経て一番大事な価値の自覚のときに、「自分がよしこさんだったらどうしますか」と主人公をもとにして自分を判断させています。光村を見てみると発問は1～3で流れているのですが、どれが「価値の自覚」を求めているのか分かりません。

議 長  
委 員

一言でよいので他に発言をいただきたいと思います。

教育出版がよいと思います。発問数の多さが一番の理由です。始まりのときであるからこそ、発問数の多さが魅力なのかもしれませんが、2年使ってみて授業を進める教育現場からみると、発問がすでに用意されていると先生の能力に合わせて考えることができると思います。逆に少なければこの発問をつくるのに色々考えられるという利点もあるのかなと思います。そこが迷うところですが、この時期としては発問数が多くて経験ない先生も使いやすいということですが教育出版がよいと今の段階では思います。

議 長  
委 員

他にありませんか。

3者それぞれ特色がありますが、その中でも、何を重視して考えたらよいかというところにポイントを当てました。それは何かというと、子ども達が、主体的に自ら考えて話し合うことができることが1番のポイントだと思います。発問も気になっています。教出については発問例が5つほど

あるのですが、そこには回答と思われるところへ誘導すべきものがあると思います。そこが心配というか、子ども達に主体的に考えさせて討論させるといったところの先に、答えが出ていることに疑問が残りました。

結論からいうと光村は発問が3つですけども、答えの誘導もありませんし、子ども達を1番に考えることが1番なのかなと思い、光村、日文、教出の順番にさせてもらいました。

議 長  
委 員

他にありませんか。

発問について見てきましたが、教出は押し付けになっているのではないかと。学びの手引きの項目については、話にならないのではないかなと。光村については誘導することもないし、見栄えが挿絵等も多くてよいのかなと思います。光村が1番で、2番日文、3番教出と考えています。

議 長  
委 員

他にありませんか。

教材の中で、様々な人物が各者出ています。光村が最近の人の考え方というか、家族と一緒に話し合えるのではないかと思います。学習の手引きは教出、「考えよう、つなげよう」というのは光村。惹きつけるのは光村がよいのではないかと思います。

議 長  
委 員

他にありませんか。

第3学年の教科書に目を通して、1番馴染みやすかったのは教出と光村でした。大事な新たな教科書ですので、伝わりやすい、あるいは指導する側も指導しやすいという観点だと、光村は、教科書にも提示してありますが、「こころんキャラクター」で学習に入る前に考えてほしいことの問いかけを行い、「きらりん」というキャラクターが学習したことをつないでいくと、共通なキャラを置いて、これから何をつなげるか明確にして教師も指導しやすいのかなと見ており、挿絵や用紙の色など色々ありましたが、光村の教科書が色的にも馴染みやすいという感じは受けました。

議 長  
委 員

まだ、発言されていない方どうぞ。

教職の経験がないのですが、今まで道徳は教科書がなくてどうやってきたかと言えば、各教科の中でという考え方があったと思います。それは国語であり算数もあるだろうし。そういった中で先生方が苦勞されてやってきたと思います。何が1番問題になってくるかという先生だと思います。子ども達ではなくて先生達がどうやって教えるか、先生の葛藤を少なくするためにそれぞれの発行者がどのような工夫を行っているか。それを子ども達が読んで、どういう考えを引き出していくかという先生の努力の賜物が、今回の道徳の教科書かなと思います。そのような観点でいくと、道徳と国語はどういった関係があるかといわれるかもしれないが、基本的に読み物を読まずというところは、読む力がないとできないと考えるのであれ

ば、現在国語の教科書が採用しているのは、光村と教出の２者ですので、そういった観点からいくと同じものを読んで表現するということであれば、教出か光村の２者だと思います。

光村の教科書は他と比べて子ども達に理解させるのは難しいのではないかという意見もありましたが、最終的には光村と教出を選んだという経緯があります。来年度は小学校ですけれども、その次年度には中学校の道徳を決めていくプロセスがあります。私は光村がよいのではないかと考えております。

議 長            ありがとうございます。これまでの協議からいくと光村または教出か  
と思ひます。日文についてはこの時点で、外してよいと考えます。教出と  
光村でどちらがよいかという話になっていますが、と若干光村の方が支持さ  
れる方が多いように思ひますが、決め方にご意見ありますか。

委 員            全会一致にならない場合には投票となっているので、投票がよいと思ひ  
ます。

委 員            様々な意見がある中で、どちらに決まっても説明できる状況になってい  
ますので、多数決で決めるのが最終的に適切だと思ひます。

議 長            ルール通りにやったらよいというご意見ですが、そのように進めさせて  
いただき、投票の結果をもって全会一致という形で考えさせていただき  
たいと思ひます。投票の方法を事務局の方から願ひします。

事務局            それでは投票となりましたので、これから各委員の方に１枚ずつ投票用  
紙をお配りします。各委員は、これまでの協議を踏まえ、総合的に捉えて  
最もふさわしいと考える教科書の発行者名を、投票用紙に１者記入願ひま  
す。その後、事務局が投票箱を持って各委員の席を回りますので、記入が  
終わりましたら投票箱に投函願ひます。全員の投票が終わりましたら、議  
長立会いのもとで事務局がこの場で開票し、結果を議長にお伝えします。

議 長            今事務局の説明がありました何か質問ありますか。それではこれから  
投票に入りますので、よろしく願ひします。

委 員            <投票>

今みなさんに投票していただきました。投票は議長の私を除いて 21 人で  
す。結果を申し上げます。教育出版が 5 票、光村図書が 16 票です。

以上により、第 6 区地の道徳用教科書は全会一致により光村図書を選定  
することを確認いただきたいと思ひますがどうでしょうか。

全 員            <拍手>

議 長            それではこれで、本日の採択協議会は終了させていただきます。ありが  
とうございました。